

市川徹

全体講評

今年は、拠点づくり部門・ネット文庫制作部門がなかったことや、震災の影響もあり、申請数が例年より少なくなるのではと心配していました。が、実際には26グループもの申請があり、特に若い人たちによるチャレンジが多かったのはとてもうれしく思いました。しかし、申請内容を見てみると、理想像が先行し、実際の活動を具体的にイメージできてないところが多かったように思います。助成総額500万円を使い切らなかったという結果は、不要もしくは背伸びしすぎと思われる内容を精査した結果が反映されたものでしょう。今回残念な結果になってしまったグループも含め、ぜひ着実に活動の輪を広げられるような具体的な企画を期待したいです。2年目・3年目に入るグループは、卒業後に資金不足で活動が行き詰まることのないよう、今のうちから卒業後の活動イメージをもち、次の活動資金確保の方法を検討し、ひとつでも実践してみてください。最後に、震災復興支援に関して、ファンド全体では時間的余裕がなく、アクションができませんでしたが、それぞれのグループで対応できることがあればぜひ取り組んでほしいと思います。市民同士の活動は、世田谷区が被災した場合においても大きな力となり、また、支えあって主体的に困難な状況に立ち向かう意識の醸成にもつながります。もちろんできる範囲でかまいませんが、どうかご一考いただければ幸いです。

【はじめの一步部門】

0-1 子どもでつながるハートくらぶ

社会的な課題に関心を持って、何かしらの活動を始めることはぜひ応援したいと思います。ただ、なるべく勉強会だけで終わらないようにしてください。たとえば、勉強会をきっかけに、いろいろな人に参加を呼びかけて、今後の活動メンバー集めをしたり、実際に活動しているグループに連絡を取ってお話を聞いてみたりなど、活動の輪を広げてほしいと思います。ぜひ今年一年、実りのある年にしてください。

0-2 あかねこうぼう

はじめの一步部門の申請ではありますが、申請書を拝見したところでは、すでに活動をしっかりされている印象を受けます。地域共生のいえの運営は、特に建物の維持費の負担が大変ですから、将来の自立運営を見越して、今のうちから資金集めや協力者・賛同者集めのための新たな活動にチャレンジするなど、着実な活動展開をされることを期待したいです。ぜひ来年度も申請をお願いします。

0-3 トランジション世田谷 茶沢会

原発のリスクが認知されつつある中、持続可能な社会づくりを進める上で重要な活動と思います。太陽光パネルを自分でつくれるものとは初めて知りました。自分でもパネルや電気をつくれるという、そういう認識をもっとたくさんの人に持ってもらえるといいですね。モノだけでは参加人数や費用も限られてしまいますので、多くの人々の意識の変革につながるような、次の展開も見据えた講座の開催ができるとなおよいと思います。

0-4 (仮称)在宅チーム医療を考える会 準備会

専門家同士が連携して地域ぐるみで在宅医療を考えることは、今後の高齢化社会の進展を見据えると、大変重要な活動と思います。ただ、一見すると同じクリニックのスタッフという、身内のグループに見えかねません。地域内のいろいろな専門家や住民に参加してもらえよう、活動への協力者・賛同者を積極的に呼びかけ、活動の輪を広げる努力をしてほしいと思います。

0-5 どんどんガガガ隊！

大きな絵をみんなで描くことは、子どもたちにとってもよい経験になることと思います。ぜひいろいろな学校やおまつりに出かけて行ってほしいですが、見ず知らずのグループは警戒されてしまうかもしれません。世田谷トラストまちづくりや世田谷まちづくりファンドからの紹介という方法を取るのも有効かと思っておりますので、その点は遠慮なくご相談ください。どのような作品ができあがるか、大変楽しみにしています。

0-6 フレンドリーグループ

楽働クラブとのつながりや活動経験があるとのことなので、活動内容そのものには心配は感じていません。が、地域のみなさんで維持管理できるよう、近隣への協力者・賛同者の呼びかけを十分に工夫してほしいと思います。太子堂 2-20 広場は確かに殺風景な広場なので、花でいい風景がつけるとすばらしいですね。将来的にはその広場だけでなく、いろいろな広場で花づくりの展開を期待したいです。

【まちづくり活動部門（1回目）】

1-1 パーマカルチャーガーデン世田谷

地域に関わろうという若い人たちの試みというだけでなく、企画もよく練られていて、プレゼンからもとても楽しそうな雰囲気を感じました。大家さんや住人の方ともうまくいっているとのことでしたので、ぜひ近隣住民の協力者・賛同者を増やす努力をしてほしいと思います。地域の場合づくりのモデルになるような、楽しく賑わいのあるコミュニティガーデンができることを期待しています。今後が楽しみです。

1-2 からすやま地域の力を集める会

あの広い区民センター前に大きな地図を広げる青空ワークショップは大変楽しみな試みです（ちょっと天気が心配ですが…）。そうした試みはなかなかできることではないので、様々なグループや近隣住民にも呼びかけて、ぜひとも多くの意見やアイデアを集めてほしいと思います。拠点づくり部門では大変残念な結果になってしまいましたが、集めた声を生かし、拠点実現の努力もぜひ続けていってください。

1-3 きっかけファクトリー

休耕地の活用というアイデアは、実際には農家との交渉が難しく、残念ながら耕作に至った例はこれまでもありません。今回厳しい評価となった要因は、そのあたりの確実性を感じることができなかったことが大きいと思います。しかし、援農サポーター制度に注目している点、事業化に取り組もうとしている点などは新しい試みであることから、それらの視点から粘り強く活動を続け、新たな道を見いだすことを期待します。

1-4 千歳小おやじの会

地域のおやじの会ならではの（気）苦労や楽しさを感じることができ、大変好感が持てます。とはいえ、今後ファンが多くのおやじの会からの申請で占拠されても困るので、自己資金づくりや運営体制づくりに成功したモデルとして、ぜひ他のおやじの会にそのノウハウを伝授していただきたいです。テントを購入されるのであれば、近隣のグループにも貸し出すなど、稼働率を上げる工夫をしてほしいと思います。

1-5 NPO 法人 玉川にエコタウンをつくる会

二子玉川駅東口バスターミナルの緑化や、玉川高校跡地の提案づくりは、まさに地域の活動グループならではの、地域課題を踏まえた重要な活動だと思います。こうした活動は地域とつながる絶好のチャンスでもありますので、ぜひ多くの賛同者や協力者を集められるように努力してほしいと思います。そういう意味では、映画会の開催はファンドの助成金を使って実施する意味合いが少し薄いかなと感じました。

1-7 街づくりの仲間たち

世田谷区のまちづくりについて話し合う場を設けることは大変重要な取り組みだと思います。全区レベルだけでなく、支所レベルで場を設けることは議論をより具体化していく上で必要ですが、運営の負担や参加者の確保などの面で大きなチャレンジになると思います。こうしたテーマは、やはり(?)興味を持つ人が限られがちなので、広報やイベントの仕方にはぜひ工夫をしてください。

1-8 ころからだ Selfeel (セルフフィール)

アロマ系・メンタルケア系の活動はどうしてもカルチャー教室的なイメージが先行してしまいます。一般のカルチャー教室などとはどこが違うのか、そう言われなための活動目的・活動対象の明確化、実績づくり・組織づくりとそのアピールが必要になってくるでしょう。まずは、他の活動グループや地域住民との一過性ではない関係づくりに重点を置いて活動されることを期待します。

1-9 Welcome Ch

いくら撮影本数を増やしたいとはいえ、そこまでの投資が必要なのか、取材先はあるのか、PRは十分なのかなど、2年目にしては活動を広げすぎな印象を受けました。効果的な広報のしかたや運営体制を検討しつつ、まずは丁寧に着実に活動実績を積んでいかれることを期待します。また、申請書の書き方が少し雑に感じました。ぱっと見の印象が悪くなりがちなので気をつけてほしいと思います。

1-10 働きたいママの応援Cafe

子育て中のママが働きやすい環境づくりは、これからの社会のあり方を考える上でとても大切な取り組みだと思います。ただ、まだ始めたばかりという割に企画を少し盛り込みすぎな印象を受けました。この企画の成否は、趣旨を理解し、参加・協力してもらえるママがどれだけ集まるかにかかっていますので、一気に雇用づくりまで行こうとはせず、まずは地道に呼びかけやスキルの集約を進めてはどうでしょうか。

【まちづくり活動部門(2回目)】

2-1 フラワーランド園芸ミニディ

プレゼンや申請書を拝見しても、みなさんの活動はとても安定していて、かつ徐々に無理なく広げているなど安心感があります。ただ、2年目になりますので、助成卒業後の活動の自立を見越して、花の手入れは施設にお願いするなど、日常の活動の負担を徐々に減らしつつ、自己資金づくりやメンバーの増員など、新しい試みにもぜひチャレンジして行ってほしいと思います。

2-2 東京グリーンプロジェクト

学校での野菜づくりにより、子どもたちが喜ぶだけでなく、学校や行政からも大きく評価されるなど、1年目にして活動の成果を上げることができたのは大変すごいことだと思います。今年度はこれまでの活動を継続発展させつつも、助成卒業後を見据えて、この活動をどのようにしてしくみとして継続していくか、資金繰りや運営・協力体制も含めた検討を並行して進めてほしいと思います。

2-3 放課後あそび舎

参加する子どもたちの人数や活動内容も充実・多様化してきていて、活動の着実な広がりを感じます。ボランティアも増えているとのことでしたが、活動が広がるとやはりその分の負担も増えますので、ぜひ引き続きコアメンバーの増員を進めてほしいと思います。資金繰りや運営体制だけでなく、学校や地域との連携も含めた助成卒業後の活動イメージを今からつくっておくとよいかもしれません。

2-4 野川（世田谷区部）の多自然川づくりを考える連絡会

施工中のまさに今が活動の重要な時期かと思えますし、行政との関係づくりもうまくいっているようです。河川の安全性を求めつつも自然豊かな野川の実現に向けて、引き続き行政への働きかけや地域グループの連携強化、有効な改修方法の提案を期待したいです。一部のグループの取り組みと見られないよう、多くのその他の住民にも積極的に参加を呼びかけたり、活動をPRしていけるとなおいと思います。

2-5 SAN/せたがや地域共生ネットワーク宮坂・経堂・赤堤

参加メンバー(?)がさらに増えるなど、着実に成果が上がっているのは大変うれしく思います。この活動はその趣旨からして3年で収まるものではなく、助成卒業後もつくり上げたネットワークを維持・発展させていくことが重要な課題になると思いますが、なかなか自己資金づくりが難しい活動内容ですので、今のうちから卒業後の活動イメージを検討しておくとういと思います。

【まちづくり活動部門（3回目）】

3-1 芦花公園しあわせの野音の会

申請書やプレゼンを拝見して、様々な施設に呼ばれてのライブや、様々な地域イベントでのライブなど、着実に実績を積んでいて頼もしく感じる一方、資金づくり・運営体制づくりにあともう少しな印象もあります。ぜひ今年度で、活動が継続できるしくみづくりにチャレンジして、他地域でもパークライブをやりたい！と思わせるグループに成長することを期待しています。

3-2 豪徳寺駅周辺風景づくりの会

助成は今年度が最後になりますが、こうした啓発活動は地道かつ継続的な広報活動が大切だと思います。活動の性質からして卒業後は資金面が心配ですが、活動を長く実践されている方が多いので、うまい方策を見つけられると期待したいです。今年の竹ポットづくりは滝坂道のアピールだけでなく、地域とのつながりづくりにも役立ちそうですので、ぜひ道を埋め尽くすぐらい設置できるといいですね。

3-3 岡さんのいえTOMO

これまでの活動による認知度の向上と、経費削減などの金銭的工夫により、イベント関係は何とか回っているように見えますが、建物の維持負担が解消されていないままなのが心配です。何か有効な解決策があるわけではないのですが、地元住民との関係づくりはぜひ進めてほしいと思います。この建物は維持したい！という声や関わる人が周りに増えてくれば、様々な負担が軽減する可能性が見えてくるのでは、という気がします。

3-4 わいわいコミュニティ・たまがわ

これまでの活動実績を見ても親世代の交流は十分にできている印象を受けますが、世代間交流がやはりなかなか難しいようですね。しかし今後の社会のあり方を考える上で重要なテーマですので、ぜひ実現できるようがんばってほしいと思います。運営については、引き続き参加者を運営側に回す工夫のほか、みんなで少しずつ「預かり合い」や「見守り保育」をやってみることで負担の削減が図れるかもしれません。